

君には、その先に、何が見える。

いわきFC・新スタジアム構想に係る市の関わりについて



©IWAKIFC



1 令和7年5月21日合同記者会見以降の主な動き



月 日	主な対応者	項 目	内 容
R7.6月	いわき市 いわきスポーツクラブ	・令和7年6月市議会定例会に補正予算提出・議決 ・Jリーグに整備計画を提出	・「小名浜港周辺のエリア価値向上に向けた可能性調査」に係る経費を計上。 ・次年度のライセンス申請と合わせて提出
R7.7月	いわき市	・いわきFC・新スタジアム整備に関する企業版ふるさと納税募集開始 ・可能性調査開始	・スタジアム建設費の財政支援として実施（令和8年3月末実績：2億2,800万円） ・事業者決定、庁内検討チーム発足
R7.9月	いわき市 いわきスポーツクラブ	・「小名浜港周辺における防災・交通対策協議会」発足 ・Jリーグより整備計画承認	・学識経験者、港湾関係事業者、周辺施設、行政等、計33名の委員で構成。可能性調査の内容について協議。（計4回開催） ・整備計画承認後、スタジアム基本計画の策定に着手
R8.4月	小名浜港周辺における防災・交通対策協議会 いわき市	・防災・交通対策協議会から令和7年度の協議結果について、市長に報告	・令和7年度は「防災対策」と「交通対策」の基本的な考え方と、次年度以降に取り組むべきハード、ソフト両面からの具体的な検討事項をとりまとめる。 ・協議会のとりまとめ結果の内容を吟味し、市の関わりを明確にしていく。



2 市が関わる意義



👉 新スタジアム構想の実現により期待される効果

● 人口減少社会への対応

- 世代を超えた多くの地域住民が価値観や感動を共有できる新たな交流空間の創出
- 若者の流出抑制、UIJターンの促進、関係人口、交流人口の拡大
- スポーツを核に周辺産業への波及効果による地域経済の活性化 など

年間約83,000人(1試合平均で約4,370人)が来場

うち域外からのアウェイサポーターは約8,750人(1試合平均約460人)

※2025シーズン実績



● 喫緊の課題(医療、子育て、公共交通、教育等)への対応

- スタジアムづくりのプロセスにおいて、顕在化する地域課題の解決策を議論
- 外部からの民間投資を呼び込むため、多様な主体を巻き込んだ、新たな官民連携手法を検討 など



2 市が関わる意義



- 👉 新スタジアムは「**地域が主語**」をキーワードに、単なるサッカー場ではなく、新たな価値創造の場とするため、**まちづくりのパートナー**であるいわきスポーツクラブが**相当な覚悟のもとチャレンジ**！
- 👉 **福島県浜通りの復興のシンボル**となるこのプロジェクトを、公民連携の新たな手法により実現することで、**地方創生の成功モデル**とすべく取り組む！



3 具体的な市の関わり



1 周辺インフラの整備



2 公共機能の導入の検討



3 エリア価値向上に向けた継続検討



※「企業版ふるさと納税による財政支援」は継続して実施



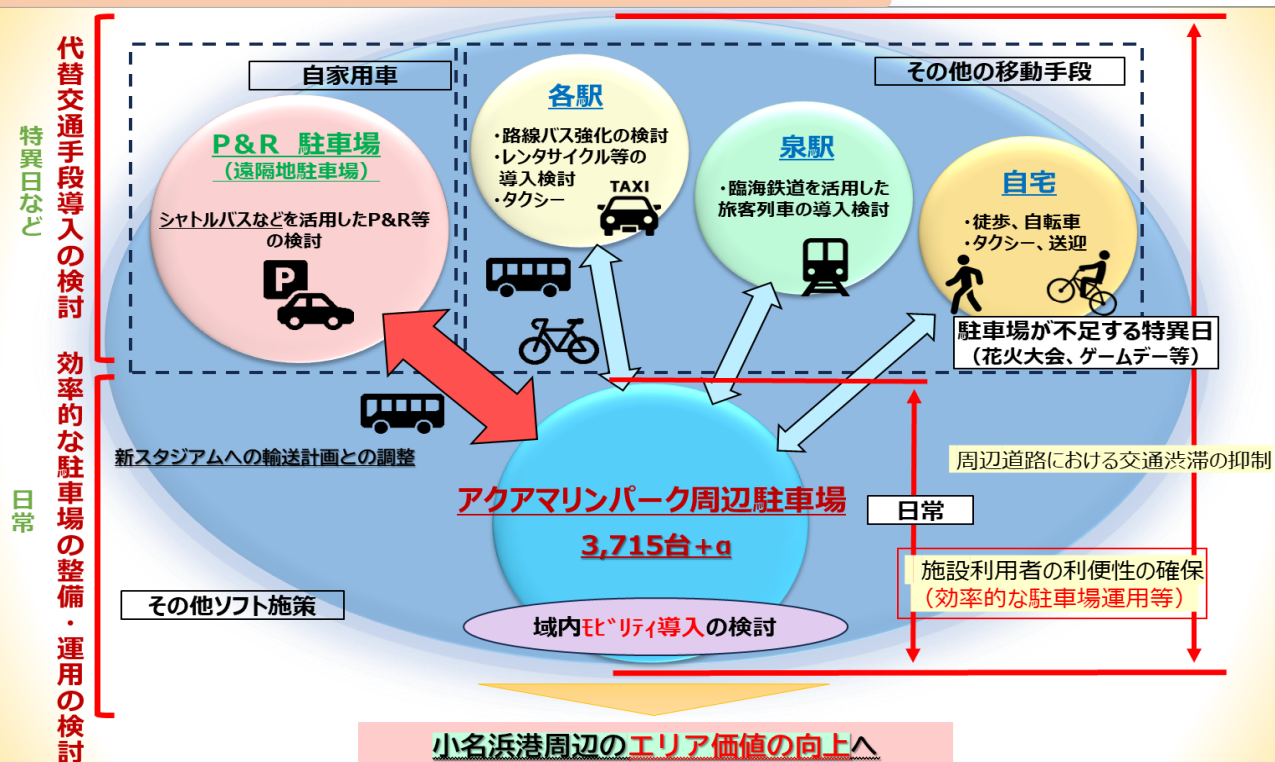
3 具体的な市の関わり

1 周辺インフラの整備



- ・多くの人や車が集うこのエリアにおいて、安心かつ安全に過ごすことができ、また近隣住民をはじめ、港湾関係事業者や周辺施設等に支障をきたさないための環境整備は、地元自治体である「いわき市」の役割として取り組みます。
 - ・必要となるインフラについては、国等の補助メニューを最大限に活用しながら整備を進めます。
- ※いわき SCと本市の共創の取組みや熱意が国に評価され、「令和8年度官民連携基盤整備推進調査費」を採択

アクアマリンパーク周辺における交通対策の基本的な考え方



新スタジアム整備後の津波避難対策の基本的な考え方

- より確実かつ安全に避難できる環境構築を目指す
 - ☞ 避難先の分散 : 現況の避難先への集中回避、より安全な場所へ避難可能へ
 - ☞ 避難時間の短縮 : より近い避難場所へ避難可能に
 - ☞ 避難環境の改善 : 避難先の混雑による避難者のストレス緩和と短期滞在の環境保全
- 要支援者は、モビリティ避難等の対応策を検討
- コミュニティ・レジリエンスによる地域の強靱化



※ 第4回小名浜港周辺エリアにおける防災・交通対策協議会 資料から引用

周辺インフラの整備方針

- ・交通における課題解消、防災の観点での一時避難所などに寄与するべく、必要なインフラ（駐車場や横断施設等）の整備を検討
- ・既存施設を含めたエリア全体を安全、安心、快適な空間とするべく、供用後の運用を踏まえた整備を検討



3 具体的な市の関わり

2 公共機能の導入の検討



IWAKI
STADIUM LABO

沿岸部

こどもの居場所、図書館等の交流スペース

にぎわいづくりに資する公共機能を

スタジアムと共創

市街地部

行政窓口 災害対応 保健福祉

生活に密着した公共機能の再配置を

- 今後、いわきSCはスタジアムの詳細を、市はいわきSCがスタジアム内に想定している公共機能の導入を含めた、小名浜地区の公共施設再編を具体的に検討していきます。



3 具体的な市の関わり

3 エリア価値向上に向けた継続検討



- ・「小名浜港周辺における防災・交通対策協議会」の協議結果を踏まえ、今年度以降、ハード・ソフト両面から具体の対策を取りまとめていくべく、テーマを分けた分科会を設置し検討を進めます。
- ・特に「エリア価値向上(賑わい創出等)」については、市内全域へ波及させるための視点を強く持ち、いわきSCが推進する「スポーツコンプレックス推進事業」などと連携し効果的に進めます。

(仮称)小名浜港周辺におけるエリア価値向上協議会(親会)

交通混雑対策部会

主に自動車交通の処理や産業機能との共存方法について議論

○渋滞対策

- ・駐車場(周辺地などの活用含)及び立体横断施設の検討
- ・試合帰りを分散させる手段検討
- ・行き帰りの走行ルートを分散させる手段検討

○産業機能との共存対策

- ・錯綜する走行レーンの整理検討
- ・事故防止に係る事前措置検討 等

公共交通部会

公共交通などの自動車以外のアクセスについて議論

○OP&Rの導入

- ・隔地駐車場の選定
- ・シャトルバス運行計画の検討

○路線バスの増強

- ・対象ルート及び駐車場の検討
- ・ダイヤの検討

○臨海鉄道の利活用

- ・市民・企業等の関わり方の検討
- ・事業性・スキーム 等

津波避難及び防災対策部会

AMP内における津波避難に必要な施設や誘導方策について議論

○津波避難計画など

- ・エリア全体での考え方の整理
- ・津波避難計画の検討
- ・事業者間の調整・連携体制
- ・要支援者対策:モビリティ避難・訓練・周知

○避難施設

- ・インフラの強化
- ・避難誘導看板(多言語) 等

エリア価値向上部会

小名浜港周辺エリアの更なる賑わい創出と交流人口拡大、市内全域への波及等について議論

○賑わい創出

- ・機能配置・空間づくりの検討
- ・試合のない日の活用アイデア
- ・イベント実施、誘致の検討

○回遊性の向上

- ・域内モビリティの導入検討
- ・滞在時間の延長手法の検討
- ・他地域との連携 等